

三 國民所得及國民貯蓄ノ狀況

昭和十九年度ニ於ケル國民所得ノ總額ハ、内地約七百七十億圓、朝鮮約七十八億圓、台湾約二十四億圓程度ニシテ之ガ一人當リ比較スレバ内地一〇五五圓、朝鮮三〇〇圓、台湾三六四圓ナリ。

朝鮮、台湾ニ於テハ國民所得ノ狀況右ノ如ク貧弱ナルヲト、資金ノ不足ニ依リ農林等ニ於テハ依然トシテ高金利ノ存スルコト、民族性トシテ金融機關ヲ信用セズ現金ノ貯藏ノ性癖アルコト等ノ理由ニ因リ當局者ノ努力ニ拘ラズ國民貯蓄ノ狀況ハ亦内地ニ比シ著シク遜色アリ。

内地	朝鮮	台湾
昭和三十五年度國民所得總額	七三〇億圓	二二〇億圓
昭和三十五年度國民所得平均額	一、四四二圓	四七八圓
昭和三十五年度國民所得平均額	六割二分	六割八分
昭和三十五年度國民所得平均額	三、五〇〇圓	九〇〇圓
昭和三十五年度國民所得平均額	一、〇三三分	六〇〇圓
昭和三十五年度國民所得平均額	八二〇圓	八二〇圓

朝鮮ノ貯蓄目標額三十五億圓、兵庫縣等ノ昭和三十五年度ノ目標額九億圓ハ

長崎縣ト同程度ナリ。

又一人當リ貯蓄額ヲ見ルニ内地ノ最低ハ神戶縣ノ八七圓ニシテ朝鮮、台湾ハ之ニ勝レリト雖モ第一ノ地位縣クハ鹿児島縣ノ二人當リ四〇〇圓ニ比スル所ハ尙未達ナリナリ

昭和二十年年度財政等、内地地比較表

項目	内地		朝鮮		台湾	
	金額	一人當り	金額	一人當り	金額	一人當り
國民所得	七三〇億圓	一、四四二圓	七三〇億圓	一、四四二圓	二二〇億圓	四七八圓
予算	二八九一〇	三九五	二八九一〇	三九五	八二八	一、二五
租稅	一、二七九	二四二	一、〇一〇	一、〇一〇	二七六	一、五〇
公債	一、二七九	二四二	一、〇一〇	一、〇一〇	二七六	一、五〇
貯蓄目標	六、〇〇〇	八二〇	三、五〇〇	五八〇	九〇〇	一、三六

註 予算、租稅、公債ハ大々内地ニ比シ、朝鮮總督府特別會計及台灣總督府特別會計關係ナリ

三、金融機關並ニ内地ヨリノ投資概況

ハ、朝鮮

朝鮮ニ於ケル金融機關ハ發券銀行トシテ朝鮮銀行、農業及鐵工業金融機關トシテ朝鮮殖産銀行及東洋殖産株式會社朝鮮支社ナリ。尚ホ一級商業金融機關トシテ朝鮮三本府ヲ有スル普通銀行ニハ朝鮮、朝鮮商業、内地ニ本店ヲ有スルモノニハ帝國、安田、三和、存大、其ノ他一時蓄銀行一信託會社一無蓋會社及各地ニ於ケル金融組合（其ノ中央機關タル金融組合聯合會ハ極メテ有力ナリ）アリ。之等金融機關ハ陳其蓋會社ノ昭和十九年十二月末ニ於ケル預金現在高ハ五十億九千三百餘万円、内銀行三十億四千五百餘万円、貸出金現在高四十四億三千四百餘万円（内銀行二十五億九千五百餘万円）ニ達ス。

ニ、臺灣

尚ホ最近各種軍需工業ノ建設並ニ伴ヒ歐戰金融金庫並ニ産業設備管理ノ投資融資ヲ活発ニ行ハレツ、アリ。

臺灣ニ於ケル金融機關ハ台湾銀行ヲ發券兼中央金融機關トシ企業金融機關トシテ日本勸業銀行支店、商業金融機關トシテ國內ニ本店ヲ有スル普通銀行ニハ台湾商工、彰化、華南、内地ニ本店ヲ有スルモノ（三和）アリ。其他一時蓄銀行一信託會社一無蓋會社各地ノ信用組合、市街地信用組合アリ。

尚最近台湾産業金庫ハ農業會、水産業會、信用組合、商工統制組合其ノ他ノ団体ノ中央機關トシテ設立セラレタリ。

昭和十九年十一月末ニ於ケル各銀行ノ預金現在高ハ九億四百餘万円、貸出金現在高ハ八億八千二百餘万円ニ達ス。

内外地銀行發行高比較

昭和十二年末	内地	朝鮮	臺灣
十六年末	二、三〇、五〇〇、〇〇〇	二、七九、五〇〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇、〇〇〇
十八年末	五、九七、八八、一六六	七、四六、六、七〇六	二、五三、八四、五
	一〇、二六、六、一六一	一、四六、六、七七六	四、一五、五、五〇四

十、九、年米	一七、七、四、五、九、九、二	一、三、一、三、五、六、九、二	七、九、六、〇、八、〇
最	二十一年四月六日 二〇、六、四、九、五、五、二	二十一年四月六日 三、九、九、五、二、八、七	二十一年三月三十一日 一、〇、〇、二、四、一、一

朝鮮ニ於ケル銀行券發行高騰ニ現ル、インフレ的傾向ハ内地ニ於ケル重要産業ノ急激ナル勃興、及那方面ニ於ケル高物價等ニ影響セラレ、所大ニシテ、台湾ニ於ケルインフレ的傾向ハ國內ニ於ケル軍政府資金ノ増大ニ相準セラルトコト大々モノアリ。之ガ対策トシテ朝鮮總督府ニ於テハ經濟安定対策委員會、台湾總督府ニ於テハ臨時対策部ヲ設置シ浮動購買力ノ吸收ニ關スル積極的諸施策ヲ企畫立案セシメ、強力ヲ以テ実行セツ、アリ。

各種金融機關預金等現在高比較表

種別	内地	朝鮮	台湾
銀行預金	一、七、三、六、六、五、〇、月	三、三、四、五、〇、月	九、〇、四、〇、月
郵便貯金	三、〇、〇、一、一	四、六、六、五、〇、月	一、九、〇
其他預金			

種別	内地	朝鮮	台湾
金銀信託	一、五、六、二、九	一、五、五	一
市街地信用組合	一、八、六、九	一	一三一
金融組合		一、五、六、四	一
農村信用組合	一、三、三、三、〇	一	二、八、八、八、月
東洋拓殖株式會社	一	一、六	一

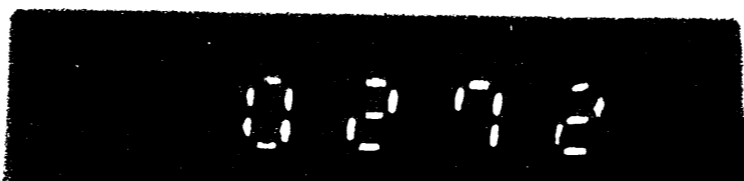
備考

一、内地ハ昭和二十年二月末、朝鮮ハ十九年十二月末、台湾ハ昭和十九年十一月末現在ナリ

(三) 朝鮮、台湾ニ對スル内地ヨリノ投資

併合以來朝鮮ニ對シ投セラレタル内地資本ノ總額ニ就テハ正確ナル計算困難ナルモ朝鮮殖産銀行ノ推算ニ依レバ昭和六年末迄ニ約二十一億円、昭和七年乃至十三年末ニ約十五億六千萬円合計三十六億円ナリ。十四年乃至十八年ノ投資額ハ従前ニ比シ著シク増加シテ、アルヲ以テ三十億円ヲ下ラザルベク合計シテ昭和十八年末

投資額ハ約七十億円ト推算シ得ベシ。尚昭和十九年中ニ於テ臨時資金調整法ニ基
 *株式ノ拂込、諸設備擴張等許可セラレタル金額ハ六億五百四十一萬餘圓(下半
 期推定)ニシテ其ノ大部分ハ内地ヨリノ投資ト看做ス事ヲ得ルモノナリ。
 領有以采台湾ニ対スル投資之類ニ概算ヲ試ムレバ昭和元年不込ニ約十三億円、昭
 和二年以後十四年迄ニ五億円合計十八億円トナリ十八年不込ニハ約二十一億円ト推
 算セラレ尚昭和十九年中ニ於テ臨時資金調整法ニ基*株式ノ拂込、設備拡張等許
 可セラレタル金額ハ二億二千七百六十五萬餘圓(下半期推定)ニシテ其ノ大部分
 ハ内地ヨリノ投資ト看做ス事ヲ得ルモノナリ。
 朝鮮ニ対スル投資ハ最大ナルモノハ鉄道ノ建設(官私鉄道合計テ六十三億餘圓)
 ニシテ港湾、水力電気事業、水田改良事業、鑛業、製鉄事業並ニ肥料其ノ他化學
 工業ニ關スル投資之ニ次ギ台湾ニ対スル投資ハ製糖事業ヲ最大トシ鉄道ハ官私鉄
 道合計十億餘圓ノ水力電気、化學工業等之ニ次グ。



朝鮮

支那事変勸発以來朝鮮ハ豊富ナル地下資源水力電源等ノ好立地
 條件ニ恵マレ各種重要産業並ニ之カ附帯産業ノ發展著シク隨ツテ
 之ニ伴フ勞働需要モ亦逐年飛躍的増加ヲ見ルニ至レリ即チ鮮内
 ニ於ケル國民動員計畫上ノ一般勞務者新規需要數ハ毎年度約三
 十萬人(昭和十九年度二十四萬人)ニ上リ其ノ内減耗補充要員ヲ除ク
 毎年度約十五萬人乃至約十八萬人(昭和十九年度ハ十六萬四千人)ノ
 増加ヲ見ツアリ他面國民動員計畫ニ基キ昭和十四年度以降内地樺
 太南洋群島等ニ對シテ送出シタル勞務者數ハ昭和十九年度末迄ニ既ニ
 六十三萬軍要員トシテ送出シタル者昭和十九年九月末迄ノ累計九萬ニ
 垂ントシ之等大量ノ青壯年層ノ動員ニ因リ從員未達富ラ誇レル鮮
 内勞働事情モ最近著シク變化シ勞務需給ノ調整ハ相當困難ナル段階
 ニ到達シツアリ期カル情勢ニ鑑ミ國民徵用令ノ全面約発動ヲ實施ス

ルノ方針ヲ決シ單ニ工場ノミナラス鐵山ニ對シテモ徵用ヲ行フコトシ現
 員徵用ニ付テハ昭和十九年二月八日ヲ第一回トシ爾來十一月末日現在ニ至
 ル迄ニ其ノ數一四四ヶ所約十六萬人ニ達セリ又新規徵用ニ付テハ從來軍
 要員ノミニ付発動シ来リ其ノ數昭和十九年末現在ニ於テ四萬一千人ニ
 達セルガ昭和十九年八月以降民間ニ對シテモ之ヲ行フコトナリ十月末
 現在ニ於テ約一萬人ノ徵用ヲ實施シタル外内地ハ勞務者送出ニ付テモ
 原則トシテ徵用ニ依リ之ヲ行フコトトシ十月末現在ニ於テ其ノ數約四萬人
 ニ達セリ尚右ノ外勤勞報國隊ノ強化、増強並ニ女子勞務ノ積極的活
 用等諸般ノ対策ヲ講ジ以テ鮮内外ノ二面的供出ト重要物資生産ノ増
 強トニ遺憾ナカラシムベク施策ノ萬全ヲ期シツアリ

参考

昭和十四年度以降ノ勞務者計畫移入數

計畫

昭和十四年度

八五、〇〇〇人

實情

三八、七〇〇人

昭和十五年度	八八、八〇〇	五四、九四〇
昭和十六年度	八一、〇〇〇	五〇、三三二
昭和十七年度	一三〇、〇〇〇	一三六、〇六〇
昭和十八年度	一五五、〇〇〇	一三三、〇五〇
昭和十九年度	三二〇、〇〇〇	二〇六、一五二(十月不現在)

計畫移入勤勞務者ノ就業先ハ炭坑及土建業ヲ主トスルモ鉄鋼業其ノ他重要工業ヘノ配置モ増加シツツアリ、單身渡来期限ニテ年々原則トセルモ内地ノ勞務事情ニ鑑ミ之ガ期間延長ノ奨励指導ヲ加ヘ来レルガ特ニ昭和二十年度ニ於テハ輸送事情ノ逼迫ニ因リ新規移入ニ多キヲ期待シ得サルヲ以テ定着ノ指導ヲ一層強化セサルヲ得サル状況ニ在リ。

(二) 台湾

台湾ニ於ケル勞務事情ハ支那事變ヲ以テ契機トシテ勃興セル島内重要鑛工業関係勞務ノ充足ノ外島内軍作業行所要勞務南方作

戰地域ニ對スル派遣要員等ノ軍特殊勞務ノ供出ニ依リ漸次逼迫ノ情勢ニアリタルガ最近特ニ台湾要塞化ノ爲ニスル勞務需要ノ尠大化ニ依リ更ニ其ノ度ヲ加ヘツ、アリ即チ國民動員計畫上ノ島内一般勞務者新規需要數ト減耗補充要員ヲ除キ毎年度數萬人(昭和十九年度四萬三千人)ニ上リ、外島外勞務者供出數累計約十三萬七千人(昭和十九年五月末迄) 台湾防衛強化施設遂行ノ爲ニスル島内臨時動員一日約二十三萬人ニ達スル状況ナリ、カ、ル勞務事情下戰局ノ要請ニ即応スベク内地ト歩調ヲ一ニシテ國民勤勞動員令ヲ施行スルト共ニ特ニ台湾防衛強化ニ事等ノ迅速ナル遂行ヲ期スル爲ニ台湾護國勤勞團令ヲ制定スル等ノ法的措置ノ外勞務機構ノ強化、學徒女子勞務者及駁廢業者ノ積極的活用、勤勞管理ノ改善等勞務施策ニ萬全ヲ期シツツアリ。

五 食糧需給状況

(一) 朝鮮

朝鮮ニ於ケル昭和二十年米穀年々食糧需給状況ヲ見ルニ先ヅ供給ニ於テ
八十九年産米予想高ハ一千万石ニ計スルニ其ノ中一千万石ニ計スルニ其ノ中一千万石
万石推穀七百七十五万石及落類百九十九万石更ニ早場米及
前年交繰越米ヲ加ヘ供給ノ総量ヲ三千万九千九百九十九石トセリ
之ニ對シ鮮内需要ハ農家消費二千二百八十九千石一般消費六百
八十九万一千石勞務者其ノ他ノ特配量二百七十五千石製粉其
他加工用百九十九千石等總計三千万九千九百九十九石トセリ
右ノ過剩高九十九万三千石ト滿洲雜穀二百萬石ヲ輸入スルコトニ依リ
七年産ニ於ケル鮮外供給高ヲ三百萬石(内食用米百萬石)ト決定
セリ尚内地食糧事情緊迫化ニ鑑ミ石外更ニ米推穀早場繰越

ニ依リ五十万石ヲ増加スベク以テカカスルコトニ協定セリ

本年産米予想ニ於ケル米及推穀ノ買入状況ハ計画數量ニ對シ米九
〇%雜穀八〇%程ヲ過リズ例年比ニ極テラ不振ナルミナラズ麦
類ノ生産予想ニ關シテモ天候肥料事情等ニ鑑ミ必ズミテ樂觀
ヲ許サザルモノアリ又滿洲雜穀ノ輸入ニ未ダ計画數量ノ三分之二ニ達
セズ斯ケラ七年産鮮内ニ於ケル需給ハ一段ト窮乏化スベキモノト予想
セラル又内地ニ對スル移入ハ十一月以降三月迄約三十万石ニ過ラズ現
下秋小ニ於ケル食糧事情ニ鑑ミ米計画數量ノ移入ハ困難ナ
排シ之ヲ達成スベク目下輸送其他ニ付各般ノ措置ヲ講ジソノアリ

(二) 台湾

先ヅ供給ニ於テ昭和十九年二期作米四百萬石同二十年一期作米三百
八十四万石ノ生産ヲ予想シ之ニ甘藷米代替三十二万七千石ヲ計上セ
ル外早場米及前年繰越米等ヲ合シ供給ノ総量ヲ八百九十九万四千
石トセリ

他面需要ニ於テハ農家飯用二百七十五万石、一般家庭用三百四十
 万石、石、特配用十八万五千石、其他種子用、業務用、酒造用、尋常
 加へ需要、総量ヲ七百八万石トセリ
 右而論、結果、軍用米ヲモ含メタル輸移、可能量ハ百八十七万四
 千石トシ、更ニ内地側ノ要請ニ依リ、上記ノ外ニ早場米、豫備ニ依リ、二
 十万石増加ニ付、好カスルコトニ協定セリ
 然レニ、戦況ノ変化ニ伴ヒ、軍用米、地特殊米、最近急激ナル増加
 ヲ見ツ、アムニミナス、三十年第一期、昨年ノ收穫、相支減収ヲ免ヒ、尤
 ベク更ニ内地間輸送ノ困難化ニ伴ヒ、昨年亦内地ニ於テ、内地ヘノ米
 積、おハ現狀、殆ド期待ニ得ザルモノト認マラル

最近五ヶ年間の外地米ノ内地移出状況及其ノ減少ノ理由
 最近五ヶ年間の於ケル朝鮮及台湾ヨリ内地ニ移出セル米ノ数量ハ左表ノ如シ

米穀年度	朝鮮	台湾
昭和一五	四二九千石	二八五五千石
左 一六	三六八一	二九五八
左 一七	五六四五	一八九六
左 一八		一六〇九
左 一九	(見込) 三三九二	(見込) 一六〇六

即チ朝鮮ニ於テハ昭和十七年ニ於ケル大旱魃ニ引續キ十八年及十九年ノ旱魃凶作ニ因リ主要食糧タル米ハ年作ノ二千ニ百萬石ニ村シテ八百萬石ノ生産減少ヲ来シタ
 ル外米ト略々左量ノ消費量ヲ有シ且移出米ノ身代リトモ爲ルベク麥類及雜穀モ米同
 様生産増進ヲ来シツ、アルノミナラズ最近滿洲國ヨリノ輸入減少セル等足寄主トシ
 テ生産部面ニ於ケル減少ト他面人口増加軍需産業ノ勃興ニ伴フ一般消費ノ自然増

加並ニ軍用米ノ供出増加等ニ因リ内地ニ對スル移出米ハ近且減少ノ一途ヲミリン、
 此ノ実情ナリ。

台湾ニ於テハ朝鮮ニ於ケル同様累年旱魃ト勞力、資材缺乏中肥料ノ激減ニ因リ米ノ生
 産高ハ逐年低下ノ傾向ヲ辿リ加之、台湾軍需化ニ因リ勞力ノ不足軍用米其ノ他特殊
 米ノ消費増加ニ依リ又最近ニ於テハ戰局ノ推移ニ伴フ内台間ノ輸送難等ニ因リ内地
 へノ移出米ハ最近頃ニ減少ヲ見ツ、アリ

二七 食糧の配給制度

(一) 朝鮮

朝鮮ニ於ケル食糧配給ノ方法ニ付テハ先ツ植付前ニ供出割当ヲ行フ。其ノ至路ハ總督府ハ道ニ、道ハ郡ニ、郡ハ邑面ト云フ如ク系統的ニ行ヒ末端ノ邑面ニ於テハ生産者及地主ノ收穫高スハ收納高並ニ其ノ家族構成等ヲ基礎トシテ部落ヲ通ジテ行ヒ、供出ニ当リテハ生産者及地主ハ朝鮮食糧管團（昭和十八年十月五日設立。資本金三千万円。内政府出資一千万円。本部ヲ京城府ニ、各道毎ニ支部ヲ設ク）ヲ通ジ政府ハ先渡ノ委託ヲ爲シ、管團ハ遑滞ナク之ヲ政府ニ売渡スモノナリ。而シテ食糧ノ種類ハ内地ト異リ朝鮮ノ特殊事情ニ基キ、米穀、大麦、裸麦、小麦、及粟、外其ノ他ノ雜穀及薯芋ノ加工品並ニ甘藷及馬鈴薯等殆ソト食糧作物ノ全般ヲ網羅シアリ。

配給ニ付テハ原則トシテ政府ヨリ朝鮮食糧管團ニ拂下ケ、管團ハ總督ノ定メタル配給計画及道知事ノ具体的指示ニ基キ之ヲ小賣商組合ニ売却シ小賣商組合ハ之ヲ家庭ニ配給ス。尚配給上必要ナル場合ハ政府又ハ管團自ラ或ハ委託ノ方法ニ依リ食糧ノ製造、加工ヲ行フ制度アリ。又鮮外ノ輸移出入ニ付テハ原則トシテ政府ノ委託ニ依リ管團之ニ当ルモ、内地移出品ノ如キハ管團ハ政府米ノ拂下ケヲ受ケ之ヲ内地ノ中央食糧管團ニ直接売却スル建前ヲ執ル。

(二) 台湾

台湾ニ於テハ生産セラルル食糧ノ種類極メテ僅クナルヲ以テ供出割当ヲ爲スモノハ米穀及甘藷ノ一部ニ過ラズ。其ノ割当至路ハ内地及朝鮮ト同様行政機關ヲ通ジ農民ニ割当ヲナシ、之ヲ總督府管團ハ台湾農業會（昭和十八年十二月設立）ニシテ從來ノ担当機關ヲリシ米穀納入組合當時農民トノ間ニアリシ相剋摩擦ハ解消セラル、ニ至レリ。

配給ニ付テハ政府ノ買入レタル食糧ハ之ヲ台湾食糧管團（昭和十九年一月二十七日設立。資本金八百万円。内政府出資四百万円。本部ヲ台北市ニ、各州ノ所在地毎ニ支部ヲ設ク）ニ拂下ケ、管團ハ總督ノ定メタル配給計画及州知事又ハ支長ノ

具様の配給計画トニ基キ各家庭ニ綜合配給ヲナス。又内地向移出米ノ取扱ニ付テハ朝鮮ト興リ従前通り政府自ラ之ニ当リ管田ハ全ク島内倉糧ノ配給ノミヲ担当スルモノナリ。

八 米價対策

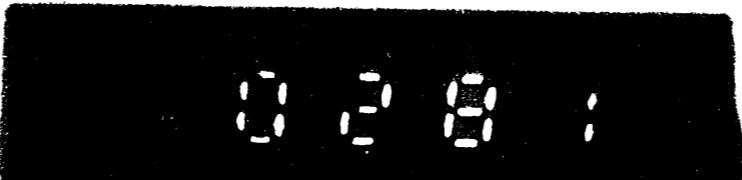
朝鮮及台湾ニ於テ米價対策ニ関シテハ内地ノ帝心食糧需給ニ与ル地位ノ重要性ニ鑑ミ帝ニ内地米價対策ニ対シテ概ネ其ノ施策ニ準シテ地ノ特殊事情ヲ勘案シテ適切ナル米價対策ヲ實施シ米穀生産ノ増強並ニ備出ノ促進ヲ図リ以テ帝心食糧供給基地トシテノ使命ヲ果シスルトナリ

朝鮮台湾ニ於テ現行米價ニ関シテハ昭和十八年四月閣議決定セラレタル内地ノ米價対策ニ則シテ同年五月閣議決定ヲ見タルノ外地ニ於ケル昭和十八年産米價總策要綱ニ依リ決定セラレタルモノニテ其ノ内容ハ概ネ内地ノ施策ニ準ジテ内地ヲ通ズル主要食糧ノ自給態勢ヲ強ク化スルノ必要ナルニ鑑ミ米穀生産ノ維持増強ニ遺憾ナカラシムルコトヲ目途トシ昭和十八年産米ノ買入價格ノ引上げヲ行フト共ニ他面麥米價格ニ付テハ公定生活ニ支障ヲ及ボサズ且ツ物價ノ悪循環ヲ招来セサル

程ヲ勘案シ適宜ナル引上げヲ行ヒタルモノナリ 内地ニ於ケル買入價格及賣取價格ヲ述ブレバ (一)買入價格(石麦)ハ(イ)朝鮮ニ於テハ四月二シテ之ニ奨励金三円及補給金九円ヲ加算スレバ實際上ノ買入價格ハ五十六円トナリ(ロ)台湾ニ於テハ三十九円三十五銭ニシテ之ニ奨励金二円及補給金十円ヲ加算スレバ實際上ノ買入價格ハ五十二円トナリ(ハ)内地ニ於テハ(イ)買入價格ハ(ロ)賣取價格(石麦)ハ(イ)朝鮮ニ於テハ四十三円ニシテ(ロ)台湾ニ於テハ三十六円三十五銭ナリ

次ニ内地ニ於テハ大東亞戰爭現況下農家ノ米穀生産及供出ニ対スル熱意ヲ一段ト昂揚セシムル共ニ郷土食ノ勵行ヲ図リ以テ主要食糧ノ確保ヲ期スル爲メ昭和十九年四月閣議ニ於テ「米穀ノ増産及供出奨励ニ關スル特別措置」ヲ決定シ米穀ノ超過供出ニ対スル報奨的措置ヲ講ジシルガ外地ニ於テハ特別措置ニ對シテ「外地ニ於ケル米穀生産ノ増産及供出奨励ニ關スル特別措置」ヲ決定シ内地同様米穀ノ超過供出ニ對シテ報奨的措置ヲ講スルト共ニ朝鮮ニ於テハ主要食糧中麦類雜穀ノ占ル地位ノ重要

ナルニ鑑ミ特ニ麦類、雜穀ニ關シテモ同種ノ措置ヲ講ジテリ
 然ル処今般内地ニ於テ米價決定ニ關スル從事ノ方法復雜ニシテ簡明ナラ
 カルト現狀ニ於テ食糧自給態勢確立ノ要更ニ緊切ナルニ鑑ミ農家ノ
 生産意欲ヲ昂揚シ食糧生産ノ増強ニ資スル爲去ル四月五日閣議ニ於
 テ昭和二十年産米價格ニ關スル件ニ決意シ昭和二十年産米穀ノ買入
 價格ヲ右並九十二円五錢ニ引上げルト共ニ尙近ク麥類及諸類ノ價格ニ
 付テモ適當ナル價格改訂ヲ行フ方針ノ下ニ進中ナル処外地ニ於テモ
 此施策ニ適シ米價其ノ他改訂ヲ爲スノ要アルハク且下成米ノ連カ
 ナル作成ヲ期待シ居レリ



五 食糧増産対策

(一) 朝鮮

朝鮮ニ於ケル主要食糧ノ増産ニ関シテハ概テ内地ニ於ケル各般ノ施策
方針ニ対応シ主要食糧就中米麦雜穀並ニ落類ノ急速ノ増産
ヲ確保スト共ニ鮮内ノ消費ノ極力ノ節約ニ努メ以テ内地ニ對スル食糧
奇兵ヲ増大セシムルハ各般ノ施策ヲ講ジツアルガ朝鮮ノ特殊事情
ニ鑑ミ食糧増産上採リツツアル方策ヲ概述セバ右ノ如シ

(二) 生産責任体制ノ確立
昭和十九年ニ決定セル農業生産責任制実施要綱ニ基キ米麦等主
要食糧農産物ヲ核心トシテ各需其他ニ需農産物ノ増産確保ヲ図ラン
カ爲シ該年ニ於ケル各品目毎ノ生産責任目標ヲ決定シ各部落ノ末端
ニ到ルマデ夫々生産割当数量ヲ周知徹底セシムルト共ニ官民一致ノ
目標完遂ニ努力シツツアリ 昭和二十年ニ於ケル各品目別生産責任

生産責任表ノ通りトス

品目	生産責任数量 (蔬菜ノ除外供給数量)	摘要
米	二二、六〇〇、〇〇〇 石	食糧関係ノミヲ掲記セリ
麦類(精穀)	一〇、五〇〇、〇〇〇 石	
雜穀類(精穀)	九、七〇〇、〇〇〇 石	
甘藷	二、三〇〇、〇〇〇 貫	
馬鈴薯	三、〇〇〇、〇〇〇 貫	
蔬菜	七、三〇〇、〇〇〇 貫	
堆肥	一、六八〇、〇〇〇 千貫	

(2) 日干懸番ニ對スル非常対策

朝鮮ニ於ケル水面積ノ半ハ水利不丑全番ニ屬シ内約三十万戸共ハ一
日干懸番ニシテ植付不能ニ陥ル危険濃厚ナル日干懸番ニシテ就中約十

町内三戸水田ハ唐中習的早魃苗ニテ最近数年ノ実績ニ徴スルニ水田トシテ
水稻栽培ヲ繼續セシムルヨリ寧以此際畑地ニ轉換セシムルヲ適策ト認ムル
ニ到レリ

朝鮮總督府ニ於テハ右ノ常習早魃苗十町内ハ七ヶ年ヲ以テ全部畑
地ニ轉換セシメ食糧畑作物ノ増産確保ヲ圖ルト共ニ其他ノ早魃苗約二
十町内ニ對シテハ一部ニ乾稻ヲ栽培セシメ一部ハ粟大豆等ノ如キ代用作
物ヲ豫メ播種セシメ置キ水稻栽培界限期迄ニ適雨アリタル場合ハ生育
中ノ代用作物ヲ廢作シテ水稻畑ニ轉換セシメ降雨キモ場合ハ代用作物
ヲ其儘ニ作トシテ繼續栽培セシムルコトニ方針ヲ決定セリ

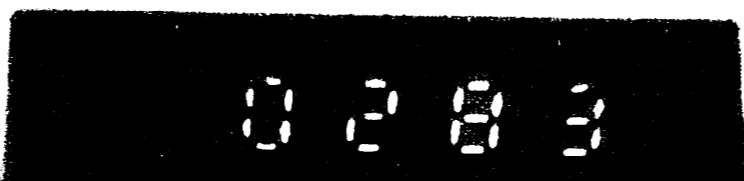
(3) 土地改良事業ノ実施

朝鮮ニ於ケル水田ノ総面積百七十七町内中水利不安全ナルモノ今猶
八十七町内ニ及ビ豊凶ノ差頗ル大ニテ灌漑施設ノ急進ナル新設及
改善ノ食糧増産達成上不可欠ナリ
叙兵ノ見地ニ基キ昭和十七年既定ノ増米計畫ヲ強化補充シ五七七

口内町内ニ對シテ土地改良事業ヲ施行スルコトナリ灌漑改善ニ重要
ヲ置キテ事業ヲ実施シ米ルガ其故ニ於ケル戰前ノ推積ニ伴フ食糧事
情逼迫化ニ對シテ昭和十八年十月閣議決定ヲ見ルニ外地ニ於ケル二次食
糧増産対策要綱ニ基キ既定計畫線ト實施ヲ行フ方針決定セラレ
昭和十九年迄ニテ着手セル事業地ノ面積一八九五口内町内ニ達セル最
近事業實施ニ要スル所要資材就中鋼材ノ著シキ壓縮ハ計畫遂行ニ多
大ノ支障ヲ招来ス昭和二十年新規事業着手殆ド不可能ニ於テ五
割リノハ甚ク遺憾ニシテ目下資材關係ヲ考慮シ繼續事業ノ實施ヲ
推進スベク計畫中ナリ

(4) 耕種法改善ノ実施

朝鮮ニ於ケル主要食糧作物ノ單位當收量ハ今猶相當低位ニ在リ内地ニ
於ケル平均反當收量ニ比較スルトキハ米ニ在リテハ約七割、麦類雜穀類及
心諸類ニ在リテハ約五割程度ニ過ギザル状態ニシテ之ガ増産餘地ハ内地
ニ比シテ甚ク乏シク



反当収量ノ増高ヲ期スルヲ耕種法ノ改善、肥培管理ノ励行ニ關シ各般ノ
 方途ヲ講ジツツアルガ本年新ニ重要的ニ實施セントスル事項ヲ略述スルハ
 (1) 籾作ニ關シテハ健苗育成、早期密植、施肥法ノ改善、病蟲ノ防除等ニ對シ之
 が改善ノ徹底ヲ期スルト共ニ從末ニテ更新タリ之優良品種ノ普及更新計
 画ヲ今年ヨリ毎年更新ニ改メ育成新品種ノ急速ナル普及更新ヲ断リス
 ルノ外約十五町歩ノ水田ニ對シテ劃期的ナル水稻畦立栽培法ヲ普及セ
 シムルヲ金ノ措置ヲ講ジツツアリ

(2) 麦類ニ對シテハ極力之栽培面積ノ増加ヲ企圖スルト共ニ反当収量ノ増高ヲ
 期スルヲ從事比較的閑却セラレタル優良品種ノ普及ヲ全面的ニ且速急ニ實施ス
 ハテ系統的採種圃ノ設置ニシテ劃策シツツアリ

(3) 蕎麥類ニ關シテハ面積ノ増加ニ主カク傾注スルト共ニ甘藷ニ在リテハ系統採種圃
 ノ設置ニ依リ育成豊産新品種ノ急速ナル普及ヲ行ヒ反當収量ノ増加ヲ期シツ
 ツアリ

是等主要食糧増産ニ不可欠ノ販賣肥料ノ逐年減少ノ趨勢ニ在リテ之ヲ以テ之ヲ對

策トシテ堆肥綠肥等ノ自給肥料ノ増産ニ多大ノ努力ヲ傾倒シツツアルガ特ニ堆肥ノ
 増産ニ關シテハ本年ヨリ農業生産委員任利ノ品目中ニ堆肥ヲ追加シ之ノ増産増
 進ニ自車ヲ加フコトセリ

(三) 台湾

餘糧

台湾ニ於ルニ主要作物ハ米及甘藷ニテ之ノ増産ニ關シテ昭和二十一年亦ニ重要農
 作物ノ調整方針ニ基キ米々之ノ作伴計畫並ニ増産目標ヲ決定シ系統的ニ甘藷
 耕作者ノ最末端ニ到ルマテ之ノ劃行ニ官民一體トナリ之ノ目標達成ニ努
 カフ傾注シツツアルニ戰局ノ推移ニ伴ヒ輸送ノ不円滑ニ基キ販賣肥料農機具
 農藥等生産必帶資材ノ激減ト島ノ要塞化ニ伴フ農科勢力ノ著ルニキ不
 足、空襲激化ニ基キ各種適期農作物ノ運送乃至實施不能等ノ特殊事情
 累積ニ目標生産高ノ完遂ハ官民一致ノ努力ニ拘ハラズ殆トシテ不可能視セラルル
 實情ニシテ今以テ於テハ既經ノ如キ台湾米ノ對内地撥出ハ到底期待シ得ザル
 狀況ニシテ真ニ島内ノ自給並ニ特殊用米ノ充足ヲ果シ得ル程ニ過ラザルニ
 非ズヤト豫測セラル

米

昭和二十年を於ける米作付計画並に生産目標ハ左ノ如シ

期別	作付計画面積	生産目標数量
一期作	二七四九二九 甲	三八四一 千石
二期作	三五六四四一	四五三八
計	六三二、三八〇	八三七九

之カ目標達成ノメカ概ネ左ノ方策ヲ講ニツツアリ

(1) 土地改良事業ノ実施

昭和二十年を於ける土地改良事業ノ実施豫定面積ハ八八三、四九七モ所

要資材就中鋼材ノ極端ナル縮減ニ伴ヒ事業ノ実施ハ困難ト認メラル

(2) 科種改良ノ改善

優良種籾ノ普及及病害蟲防除ノ励行、苗代管理改善並ニ深耕ノ実施等

對シテ特ニ指導ノ徹底強化ヲ期スルメテ劃策ニツツアリ

(2) 甘藷

甘藷ハ増産ノ餘地最モ大ニシテ雜穀類ノ生産ニ乏シキト島於テハ米ニ並シク主

要食糧ナルノミナラス工業原料及飼料トシテ其ノ需要激増趨キタルニ鑑ミ

之ヲ急速増産ニ異常ナル力ヲ拂ヒツツアリ

昭和二十年を於ける甘藷ノ作付計画並に生産目標ハ左ノ如シ

作付計画面積

生産目標数量

之カ目標完遂ノメカ概ネ左ノ方途ヲ講ニツツアリ

(1) 作付面積ノ拡張

甘藷ノ作付面積ハ従来概ネ十四万三千甲程ナリシガ昭和十九年を以テ降急激

ニ増及スルコトナリ不急作物ノ作付轉換氷田蔗作ノ撤退且荒蕪地ノ開墾等

方策ヲ講シ昭和十九年を於テハ一躍十萬九千甲ニ到タルガ本年ハ前年ニ

比シテ一萬四千甲ノ増加ヲ計画ニ銳意之ヲ達成ニ努メ中ナリ

(四) 耕種法ノ改善
 優良品種ノ普及 水平淺植 適期植付 密植並ニ堆肥ノ増施等ニ對シテ重要指導
 ヲ加ヘ反享收量ノ増加ヲ企圖スツベシ

二、台湾糖業

台湾、製糖業ハ毎年約一、八百万担程ノ生産ヲ舉ゲ帝
全領域産糖量ハ割五分ヲ占メ(他ノ生産地ハ南洋群島沖
繩、鹿児島(蔗糖)及北海道、樺太(甜菜糖)ニシテ其ノ生産高
ハ分産糖約二百万担、合産糖約四百万担ナリ)タルガ近年食糧増
産ノ強キ要請ニ依リ、水田蔗作ノ撤退、甘蔗早刈ノ励ム、甘蔗
間作奨励、肥料不足ヲ依リ漸減傾向ヲ示シソツアリ、尤モ東
津、砂糖ハ田畑共ニ耕作セラレ、其ノ面積ハ毎年約十五万町歩ニシ
テ全耕地ノ約三割ヲ占メ、其ノ内水田蔗作ハ昭和十八、十九年期ニ於
テ約四万五千町歩アリタルモ、右面積中地目ハ水田十八万、灌漑甲
水ノ関係上ハズシモ近年水稲耕作ヲ行ヒ得タルモノアリ、結局糖
可能面積ハ約一、五万町歩ニシテ、十九、二十年期ニ於テ約六、七
万町歩退シ一、八万町歩トナリ、現在此ノ内、ブタノハ生産工場ノ原料

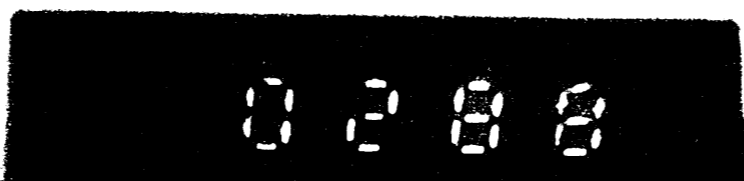
採取区域面積ノ隘除ク、水稲糖作可能面積ハ五、八万町歩ニ減
少セリ。

右ノ如キ生産ニ対シ平時ノ需要ハ内地約一、八百万担、台湾自
担、朝鮮七、七百万担、滿洲百、五百万担ニシテ、帝風ノ産糖ハ略全領域ハ
需要ヲ充シ得ル状況ニアリ、然レニ昭和十七年ハ以降船腹ノ減
少ニ伴ヒ需要ハ大ニ上ラヌ内地ノ砂糖消費ニ規云フ如ヘラハルニ至
リ、其ノ程ハ逐年強ヒセラレ、昭和十八年ハ一月乃至十一月ニ於テ
内地民需配當額ハ七百五十万担即チ前年比ニ約五割削減
減トナリ、更ニ昭和十九年ハ民需配當額ハ僅ニ三百八十萬担ニシテ
平時需要ノ二割ニ著減セリ、此ノ影響ニ因リ台湾島内ニハ夥シ
キ滞貨ヲ生シ、昭和十八年ハ約七百五十萬担、滞貨ヲ残シ、昭和
十九年ハ約九百二十萬担ト更ニ滞貨量
増加セリ。

斯ノ情勢並ニ現下ノ食糧事情ニ鑑ミ台湾糖ノ生産ヲ壓縮スル以テ

米穀増産ヲ圖ルベシトノ議論生ゼルガ戰局ノ進展ニ伴ヒ新ニ砂糖ヲ原料トスル液化燃料製造ノ必要ヲ生ゼリ
 昭和二十年夏液化燃料生産計畫中砂糖ヲ原料ニ予定セルアルコトノ製造計畫ハ四十八万担(原料砂糖所要量約七十七万担)トナレリ
 右ノ事情ヲ考慮シ昭和二十一年期台湾糖ノ生産計畫ニ付テハ關係當局間ニ於テ慎重協議ヲ重ネタル結果現下ノ食糧増産ノ絶對的妥請ニ即應スルコトヲ第一義トシ地面燃料用砂糖ノ帶要ヲ勘案シツソ帶要ノ現狀並ニ輸送船腹ノ見透シヲモ考慮シ生産糖目標ヲ勘クトモ一々五百万担トシ之ニ要スル甘蔗作付面積ヲ十四万五千町歩ト決定セリ南此ノ植付面積ヨリハ前記水稻轉換可能面積ハ凡テ撤退セラレタリ然レニ其ノ以戰局ノ緊迫化ニ伴ヒ臺灣總督府ニ於テ關係當局ト協議ノ結果台湾ニ於テ今日最モ逼迫セル蛋白質資源食用油及後撤油ノ島内自給ヲ圖ル目的ノ下ニ甘蔗植付面積ヲ約三万町歩減反シ落花生其他豆類ノ緊急増産ヲ企圖セリ右措置ニ依リ昭和二十

二十一年期台湾糖ノ生産目標ハ三百七十万担減少ノ概ネ一千五百担余トナリ植付面積ハ十二万五千町歩トナリタル處最近頗ニ戰場化サレタル台湾現下ノ情勢ニ鑑ミ今夏蔗作戰時措置ヲ斷行スルコトトシ食糧自給近利ヲ更ニ強化セリ即下現下ノ努力ノ事情ノ空襲及去年夏ノ製糖状況等ヨリ勘案シ来年夏ノ製糖ハ一層困難視サルヲ以テ植付期ニ至ルニ尙植付未了ノ約二万三千町歩ハ凡テ作付ヲ停止シ食糧作物ニ轉換スルコトトシ此外ノ東部及中部地方ノ食糧自給困難ニ至ルタメ来年夏ノ水田甘蔗ハ既ニ植付ヲ完了セルモノモ併セ中部地方約一萬町歩並部地方約一萬五千町歩計約二万五千町歩ヲ全面ニ撤退シ米作ニ轉換セシメタリ以上ノ措置ニ依リ農ノ約三万町歩減反ト併セ約五万五千町歩ヲ減反スルコトトナリ結局蔗作面積ハ約八万五千町歩余トナリテ来年夏ノ産糖高ハ七百担程ノ大減産ヲ予想セラル
 高昭和十九年夏(二月乃至三月)台湾糖ノ内地移出計畫九百三十三万



二五担ニ對シ案續約六百九十五下担トナレリ

294

二 肥料事情

戰時下食糧増産ノ基盤タル肥料ノ増産ニ関シテハ内外地一丸トナソテ適切ナル措置ヲ講ジツ、アルモ原料關係 補給資材關係 労働輸送關係等ノ隘路ヲ生ジテ漸減ノ趨勢ニアル事情ナリ

(一) 朝鮮

昭和十八肥料年度ノ計畫數量五十一万八千噸ニ對シテ実績ハ四十八万三千噸ニシテ約七分ノ減産トナリ之ヲ支那事變勅令當初ノ昭和十三肥料年度ノ生産ニ比シ約三分ノ減産トナル 尚硫酸ハ計畫四十万噸ニ對シ約四十一万噸ノ実績トナリ僅カニカラ増産ヲ示セルモ 尚之ヲ昭和十三年度ノ四十三万九千噸ニ比較スルハ約七分ノ減産ナリ 硫酸安其他化成肥料ノ生産ハ何レモ激減セリ 昭和十九肥料年度ニ於ケル硫酸生産計畫ハ当初四十五万五千噸ナリシ其ノ後工場ノ一部ヲ稼働用途ニ轉換スル關係上四十万噸ニ改定シ昭和二十年二月末迄ノ生産実績ハ二十三万五千噸ナリ

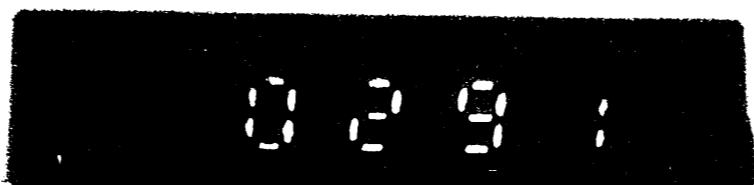
次ニ消費状況ヲ見ルニ昭和十八肥料年度ニ於ケル実績ハ四十一万四千噸ニシテ之ヲ昭和十三肥料年度ノ七十三万三千噸ニ比較スルト五割六分ノ低下ナリ

(二) 台湾

台湾ニ於テハ硫酸ノ生産ハ皆無ニシテ化学肥料トシテハ石灰窒素 過磷酸石灰アルノミナルガ昭和十八肥料年度ノ計畫數量五万一千噸ニ對シ実績ハ其ノ四割九分ノ二万五千噸ニシテ昭和十三肥料年度當時ノ生産量ニ低下セル現況ナリ 他面昭和十八肥料年度ノ消費実績ハ十六万一千噸ニシテ昭和十三肥料年度ノ二十九万二千噸ニ比較シ四割五分ノ低下セリ 島内生産肥料タル過磷酸石灰ノ原料鉱石ノ極度ノ入荷減少ニ因ル生産減ト硫酸移入著減ニ加フルニ敵機ノ爆撃ニ因ル被害工場ノ操業休止並輸送ノ悪化等ノ關係ニテ本肥料年度ノ肥料供給ハ益々激減スベク需要量ノ大半ヲ島外ニ依存スル台湾農業ハ化學肥料ヨリ自給肥料ヘノ轉換ヲ一段ト強化セザル情勢ニナリ 尚昭和十九肥料年度ニ於ケル台湾ノ肥料配分決定數量ハ輸入(開港ヨリ)一千五百

純移入(内地朝鮮ヨリ) 九万八千五百吨合計十万吨ナリシ如前送状況悪化ノ爲昭和
二十二年二月末現在入荷数量僅カ九千三百吨ニ過ギズ 台湾農業ニ及ホス影響甚大ナ
ルモノアリト認めラル

ニ一ニ



三 林業及木材ノ需給

(一) 朝鮮

朝鮮ニ於ケル林野面積ハ約一千六百萬町歩ニシテ全面積ノ七割三分ヲ占ム其ノ蓄積量ハ約一億一千萬石ニ達ス、林野面積中立木地ハ約一千五百五十萬町歩ニシテ林相ノ見ルルニモ一ハ鴨綠江、豆満江ノ両流域及齊嶺山脈ニ偏在シヤリ其ノ他ノ四百八十萬町歩ハ散生地又ハ米並木地ニシテ木々荒廢セルモノ多シ

木材ノ生産ニ付テハ事変以來軍需並ニ鉱工業用等ノ需要増大ニ對應シ森林ノ伐採ハ漸次増大シ昭和十三年度四千七百萬石ナリシ伐採量ハ昭和十八年度ニ六千九百萬石(用材二千六百萬石、薪炭材四千三百萬石)トナリ之ヲ標準年材量タル五千八百萬石(用材二千五百萬石、薪炭材三千三百萬石)ニ比スレバ一千一百萬石ノ過材ノ状態ニ在リ用材ノ需要量ハ事変以來約四割ノ増加ヲ見タリ、即チ昭和十三年約二千萬石ノ需要量ハ昭和十七年ニ於テハ約二千七百萬石ニ及ビ當該年度ノ生産量(二千一百萬石)ヲ以テハ之ヲ賄ヒ得ズ約四百萬石ハ九六換算約二百萬石

二二一

ヲ内地ヨリ移入シ需給ノ均衡ヲ得タリ、昭和十八年度以降ニ於テハ内地ノ木材事情並ニ漸次トノ關係ヨリ之ニ依存スルコト困難トナリ鮮内ノ木材需給状況ハ甚クシク逼迫ノ傾向ニ在ルニ極力鮮内木材ノ増産ニ努ムルト共ニ他國用材配給ノ重負化ヲ因リ以テ需給調整ノ萬全ヲ期シツ、アリ

(二) 台湾

台湾ニ於ケル林野面積ハ約二百三十萬町歩ニシテ全面積ノ約六割五分ヲ占ム其ノ蓄積量ハ七億四千萬石ナリ、台湾ノ林業ハ概テ國有林野ニシテ面積ニ於テ約九割蓄積ニ於テ約九割五分ヲ占ム

台湾ニ於ケル最モ有用ナル樹木ハ松、ベニヒ等ノ針葉樹ニシテ其ノ分布ハ概テ高山地帯ナレドモ阿里山ヲ初トシテ風ニ開發利用セラレ特ニ事変以來艦船用材、航空機用材トシテ多量ニ利用セラレ又蓄積量ノ過半ヲ占ムル闊葉樹モ近時鉦工用土産用等トシテ廣ク利用セラレツ、アリ、森林伐採量ハ昭和十三年度四百八十萬石(用材二百三十萬石、薪炭材二百六十萬石)ナリシモノガ昭和十七年度ニ於テ

八五十七萬石（用材三百二十萬石、薪炭材百九十萬石）に達せり
 台湾に於ては従来ヨリ檢、ベニ、如ク特産材一凡六十萬石、その内以て移出
 三一般用材、電柱等、内地ヨリ移入ニ依リ其ノ數量ハ需要量ノ概ナ大割乃至之割
 （需要量凡六百萬石ニ對シ内地移入百九十萬石）ニ及ハルモ重要以後ハ軍需
 生成同等ノ需要激增（凡六十萬石）ノ反面内地材ノ輸出困難トナレシ爲倚産
 材ノ増産ヲ極力行ヒ需給ノ均等ヲ保持ス居ル実情ナリ
 参考

(一) 昭和十八年度内外地ニ於ケル木材需給状況

(單位九千石)

生産量	内地	朝鮮	台湾	備考
移出量	一〇〇、二四三	一三、一〇三	二、四四九	内地ハ薄ク多ク
移入量	一、二八	五、二九	二、六九	
輸入量	一、一	一四〇	一	

三三二

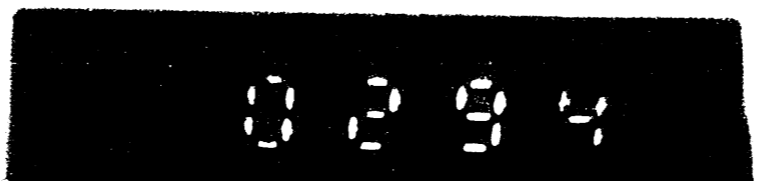
(二) 昭和十七年度ニ於ケル木材生産及需給状況

(單位石)

前年度持越量	移出量	移入量	輸出量
二四、二六九	二、四六五	一、六一九	二、八八四
二、四六五	五、八八	三、一	七、二
二、四六五	八、三六	二、五九五	一、八一

生産量	朝鮮	台湾	備考
移出量	一〇〇、一〇〇	一八、四〇〇	一朝鮮
移入量	一、六八〇	一、七〇〇	生産區需給ノ量ハ物動
輸出量	一、六八〇	三、三〇〇	對四ノ數量
前年度末市場在庫量	二、四六五	二、八〇〇	一台湾
移出量	二、四六五	五、〇〇〇	見込計上

輸出量	本年産米市場在庫量	差引需要量
一〇〇〇〇	一五〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇



三 畜産及馬政

朝鮮ニ於テハ畜産資源ノ充實ヲ期スル為ニ付テハ昭和十三年以降
 二十箇年二百五十萬頭、豚ニ付テハ昭和十四年以降七箇年二百二十萬
 頭、兔ニ付テハ昭和十四年以降七箇年二百三十萬頭ヲ目標トシ増
 殖計畫ヲ樹立シ銳意興政良増殖ニ努メツツアル處昭和十八年末
 現在ニ於ケル飼育頭數ハ百七十一萬三千九頭、豚七十二萬五千六頭、兔
 十三萬四千四百十二頭、鶏五百六十九萬三千六百二十羽ナリ。尚、乳牛ニ関シテハ
 從來見込キモ、昭和十八年末現在三千八百一頭ヲ飼育セルニ過ギル處
 現下ノ情勢ニ鑑ミ昭和十八年ヨリ向十箇年一萬頭ヲ目標トセル酪業獎勵
 第一期計畫ヲ樹立シテ増殖ヲ圖リツツアリ

臺灣ニ於テハ昭和十四年以降八箇年牛三千萬頭、豚百七萬頭ヲ目
 標トシ増殖計畫ヲ樹立シテ改良増殖ヲ圖リツツアル處昭和十七年末現
 在ニ於ケル飼育頭數ハ牛三萬五千五百頭、豚百三十五萬八千九百九十五頭ニ達

シ外ニ水牛二千五百七十九頭、鶏五百三十三万六千羽、牧馬三百二十九萬羽及猿
 三十四萬羽ヲ飼育セリ

(二) 馬政

朝鮮ニ於テハ昭和十年以來馬政計畫ヲ樹立シ實用の有能馬ノ造成
 確保ヲ圖リ未ダ爾後ノ情勢ヲ鑑ミ昭和十二年右計畫ヲ補充シ
 同年以降十五箇年ヲ期シ改良馬四萬頭ヲ確保スルニトセルが昭和十五年
 國際情勢ノ急迫化ニ鑑ミ右計畫トハ別和ニ軍馬資源確保ニ關スル
 應急施設計畫ヲ樹立シ内地馬ノ移植ニ依リ昭和十九年度ニ於テ約
 一萬五千頭ノ軍用適格馬ヲ保有スルニシテ着實施設シ未ダ爾後昭和十八年
 末現在ニ於ケル總馬數ハ右兩計畫ニ依リ改良馬及移植馬ヲ合メ五萬三千五百
 九十七頭ニ達セリ

臺灣ニ於テハ昭和十三年馬政計畫樹立以來耐熱性ニ富ミ實用の有能馬ノ造
 成増殖ヲ努メツツアル處昭和十五年國際情勢ノ變化ニ對應シ急遽

台湾

年次	計	其他	計	馬	豚
昭和十四年	一、四四五	三、三三三	三、四七五	二、五五九	一、六五三、二一〇
昭和十五年	一、三八三	二、九八八	三、〇一一	二、七〇〇	一、三〇〇、九八三
昭和十六年	一、四三〇	三、〇七五	三、九一〇	三、三三三	一、一五八、三三三
昭和十七年	一、八八一	三、〇九二	三、一七三	三、三二七	一、三五六、一九五
昭和十八年				二、九六九	

年次	計	其他	計	馬	豚
昭和十四年	二、四〇八	一、七〇五	一、七〇五、四六三	四八、五五九	一、四〇〇、〇三八
昭和十五年	二、三八四	一、七三六	一、七四〇、三九〇	四八、三三一	一、三三〇、三三〇
昭和十六年	二、五五七	一、七五〇	一、七五三、五五七	五一、六一七	一、三三七、〇四二
昭和十七年	三、一〇三	一、七三六	一、七四〇、〇七三	五三、五九九	一、二四九、五六三
昭和十八年	三、八〇一	一、七三〇	一、七四〇、一〇〇	五三、五九七	七三〇、〇五六

最近五年間畜畜頭数調
小朝解

二軍所要馬ノ確保ヲ期スルニ右計出ヲ修正シ昭和十五年ニ於テ總馬數
八萬四千頭ヲ保有スルコトノ實際績ノ昇揚ヲ期シタリ。昭和十八年末現在
二万九百六十九頭ニ達セリ。

二、水産業

(一) 朝鮮

朝鮮ハ其ノ地勢海況各種魚類ノ洄游ニ適シ其ノ種類数量豊富ニシテ昭和十六年ニ於ケル漁獲高ハ一億七千万円余ニ上リ鮭ヲ大宗トシテ年産五百万円以上ノ魚類ハのんた、ぐち、いほ等七種ニ達ス

漁業ノ種類ハ朝鮮在来ノモノ及内地式ノモノアリ頗ル多キモ漁船ハ概ネ小型ニシテ優良漁船ノ普及ハ未ダ充分ナラザレドモ近年ニ於ケル機船漁業増ニ機船中着網漁業及機船底曳漁業ノ発達ハ注目ニ値ス

養殖業ハ年産一千八百五十万円余ニシテのり、かま、ふな、まき等ハ其ノ主要ナルモノナルガ就中のりハ年産一千七百万円ニ達シ内地ノ淡水海苔ノ原料ニ使用セララル水産製造物ハ年産約一億七千万円ニシテ其ノ大半ハ素乾品、塩藏品、煮乾品等ノ食料品トシテ肥料、油脂類等ニ相当量ニ達ス

尚近年ニ於ケル鮭漁業ノ状況ヲ見ルニ特ニ昭和十七年以來鮭洄游ノ不同ニ依リ未

曾有ノ不漁ヲ現出シ漁獲高ハ僅カ七方丈程度ニシテ従前漁獲高ノ一割ニ達セス爾來鮭洄游調査等ヲ実施シ観測之ガ回復ヲ企圖シ居レドモ未ダ全ク見込立タサル現状ナリ

(二) 台湾

台湾ノ水産業ハ海洋漁業ニシテ沿岸漁業ハ内地、朝鮮ニ比シ著シク遜色アリ昭和十六年度ニ於ケル水産総額ハ約五千五百万円ニシテ漁獲高ハ三千七百万円ニ過ラズ其ノ主要ナルモノハ類、ぐち、鮭、鱈、鱈等ナリ

次ニ水産物需給ノ状況ヲ見ルニ鮮魚類ハ概ネ需給ノ均衡ヲ保テツ、アルモ(年間生産八万屯ニ対シ同程度ノ需要ナリ、塩乾魚類ハ熱帯地域タル事情並ニ本島人ノ嗜好品タル關係上需要頗ル多ク島内産ハ其ノ一部ヲ充タスニ過ラズ概ネ内地ヨリ移入シ来レリ(鮭、鱈、鱈、鱈等ノ塩乾モノ年間三万屯乃至五万屯ヲ移入ス)然ルニ近時内地ニ於ケル需給並ニ輸送不用滑等ノ事情ニ因リ移入減少ノ傾向ヲ生ジ他方特ニ最近ニ於ケル特殊需要ノ増加アリ水産物ノ需給ハ頗ル窮乏トナリツ、アリ

二五 重要鉱物ノ生産



朝鮮、台湾、珠、朝鮮、重要鉱物ノ埋蔵多、種豊富ニシテ、戦時下、帝國ノ産物増
 産、増強スル所大ナルモ、下リ

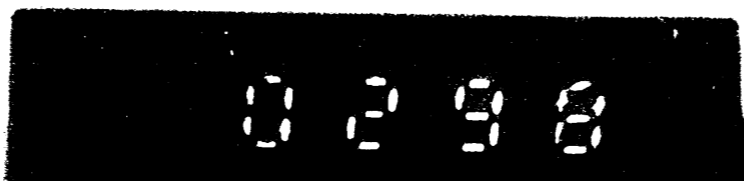
左ニ内外地ニ於ケル重要産物ノ生産量並ニ其ノ全國生産量ニ對スル比率ヲ
 示ス (昭和十九年度一月迄ノ実績、比率ハ昭和十八年度計画ニ依ル)

57

	朝鮮	台湾
鉄鉱石	三、〇三三 (四四%)	(〇%)
銅	四、三七八 (四五)	二、九四六 (五五)
鉛	一、九八五九 (三六%)	(〇)
亜鉛	一、八七九五 (一三%)	(〇)
石 綿	四、六三一 (六一%)	四、七六 (九四)
螢 石	六、九六九四 (九〇%)	(〇)
雲 母	三、八五 (〇〇%)	(〇)
錳、炭、黒、鉛	二、四九四七 (〇〇%)	(〇)
土、灰、黒、鉛	六、四六〇〇 (〇〇%)	(〇)
タンクスリン	八、三七九 (八三%)	(〇)
モリブデン	三、四五 (六七%)	(〇)

石炭ハ朝鮮約七百萬噸、台湾約二百五十萬噸ノ生産ナリ。朝鮮ニ於ケル
 生産ノ半額以上ハ無煙炭ナルガニ、ニ對シテ、台湾ハ約九百萬噸ニ達スルヲ以テ朝
 鮮ハ無煙炭約百萬噸ヲ内地ニ移出シ(煙炭原料等ナリ)此、滿洲、内地、樺太
 等ヨリ有煙炭(殊ニ製鉄原料炭)約三百萬噸ヲ輸入ヲ受スル狀況ニ在リ然
 ルニ最近現地ニ於ケル生産減乃至輸送難ニ基因シテ、北支炭ノ輸入極度ニ急化
 シ(十九年度第四半期実績ハ計画ノ三割ニ過キズ)一方、鮮内ノ有煙炭ハ、産並
 ニ滿洲及内地炭ノ輸入共ニ低調ヲ示シ、鮮内ニ於ケル鉄道及熔鉱炉ノ運轉ニ重
 大ナル影響ヲ與ヘツツナリ

台湾ハ生産額需要ニ超過シ支那南洋方面へ約三十萬噸ヲ輸出ヲ爲シ、ソノ
 (是又、勞務事情等ニ依リ減産者シテ最近ノ月産額ハ十二萬噸ニ過キズ
 金ハ從來朝鮮ノ最重要産物ニシテ、昭和十七年度ノ生産額ハ内地約二十萬
 二對シテ、朝鮮二十四萬一億三十萬圓(台湾三億)ニ上リタルガ十八年度ノ全
 産業整備方針ニ依リ、銅ヲ鹽伴スル鉱山以外ハ廢山休止セラレ、トナリ



全鮮千二百餘、金山中存續スルモ、ハ約四分ノ一トナリ之ガ資材業務、他
 産業ハ、轉換モ略完了ヲ見タリ
 鉄鉱石ノ朝鮮ニ於ケル生産ハ、前時年産約三百萬噸ニ近キ実績ヲ收メ、内地、夫
 レヲ凌駕シ、アリタル處、其ノ後ニ於ケル船腹事情ニ依リ、支那及南方鉄鉱石ノ輸入
 減ニ對處スル爲、大規模ノ緊急増産ヲ行フ方針、決定ヲ見、昭和十九年度ニ於
 テハ約四百十萬噸ノ生産ヲ目途トシ、極力、増産ニ努メ、タルカ概テ良好ナル成績ヲ
 示シ、前年ニ比シ約百萬噸増ノ実績ヲ見タリ